

こども家庭センターのスタッフが子育てについての情報を発信していきます！

今月のトピック ～ 11月は「児童虐待防止推進月間」です

児童虐待とは？

身体的虐待	殴る、蹴る、叩く、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせるなど
性的虐待	こどもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にするなど
ネグレクト	家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、病院に連れていけないなど
心理的虐待	言葉により脅かす、無視、こどもの前で家族に対して暴力をふるうなど

「189」って知っていますか？

「189」は「虐待かも」と思ったときに児童相談所に通告・相談ができる全国共通の電話番号です。

あの子、もしかしたら虐待を受けているのかも…

子育てがつかなくてこどもにあたってしまふ

いちはやく
189
にお電話

お近くの
児童相談所

専門家が
対応いたします

匿名でも可能です
秘密は守られます

氷川町こども家庭センター
☎0965-62-3456

町民文芸

投稿先 〒869-4814 氷川町島地642番地 企画財政課宛（毎月5日必着）

俳句	
新生姜味噌汁旨味舌ならす 西野津 古崎 栄子	一人居て画面に笑ふ声出して 爽やか秋日昼下がり 西野津 古崎 栄子
柿たわわ肥後の石工の目鑑橋 西上宮 山下 環	彼岸花「秋分の日」に合わせ今年も 白・赤・黄の順に咲いて見せる 西上宮 廣瀬 小亀
彼岸花「秋分の日」の季節花 西上宮 廣瀬 小亀	望の夜や二階のカーテンまた開き 宇宙の神秘にひたるひととき 西上宮 廣松 真実子
田を分かつ直線の色彼岸花 西上宮 廣松 真実子	彼岸入りおはぎの用意あんこねり お世話になった人に参りて 西野津 古崎 スエノ
新米と新唐芋のコラボ飯 西野津 古崎 スエノ	たらちねの母なるみかんもぐまじき 秋の蝶来て恋しがりけむ 北野津 井田 道寛
たまきはる命あやしき彼岸花 北野津 井田 道寛	

『金閼寺燃ゆる』 三島由紀夫「金閼寺」から その12
法道寺 本田 花風

豊田貞子という麗人との離別は、結果的にみれば、三島にとって大きな痛手であっただろう。近年、その交際の詳細が明らかにされている。貞子は新橋の大きな料亭を経営する両親のもとに生まれ、花柳界の真っ只中で育った生娘とでもいうべき女性である。慶応女子高に学び、文才に恵まれ、芸事にも精通していた。二人の交際は、昭和三十三年五月まで続いた。三十年代初頭の『小説家の休暇』に描かれているように三島は自身にあふれていた。その自信が貞子との恋愛によって支えられていたものであり、『金閼寺』もまた、貞子との濃厚な関係のさなか書かれている。この翌月は『金閼寺』発行の翌年に終わる。インタビューで貞子は、三島の束縛をつらく感じ始めたからと述懐しているが、今となっては、どちらから切り出したものかは判断がつかない。三島にとって生涯の女は貞子と瑤子夫人だけであった。こと女性に関しては口角が狭かったようである。

『金閼寺』を世に出すと共に、三島の地位と名声はもはやゆるぎないものとなった。それによって現実感が得られたわけではないが、彼自身にとって支えともなり、自信もなくなっただろう。いや、むしろ現実感がないがゆえに、目にみえる形での世俗的評価は、彼にとっては重大な関心事であったにちがいない。自我の推薦状を書かざるをえず、それによって受賞の機会を逸したことは、無念の極みであったはずである。

八火図書館だより

☎0965-62-3489

初冬のみぎり、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

10月27日⑧から11月9日⑨は読書週間です。79回目となる今年の標語は『こころとあたまの、深呼吸。』です。めまぐるしい日常に息が詰まるとき、ぜひ読書を通じて心と頭をリフレッシュして欲しいです。



お知らせ

作品を募集します

読書週間の行事の一環として、読書感想文と感想画を募集します。募集要項と原稿用紙は図書館カウンターに準備しています。

○締切 11月28日⑨ ○提出先 八火図書館

お話し会を開催しました

8月21日⑧に「竜の子おはなし会」さんによる、素敵な読み聞かせや手あそびを行いました。今回は大人の参加者さんが多かったので熱心に聞かれ、楽しい時間はあっという間でした。



■ 一般書

生活 / 町屋 良平
答えは風のなか / 重松 清
天がたり / 麻宮 好
パズルと天気 / 伊坂 幸太郎

■ 児童書

こねこのトトはおるすばん / くらはし れい
おいしいをつくる チョコレートのおしごと事典 / MOE編集部
ぼくはかける / イ・ハジン
ネバーランドの向こう側 / 佐原 ひかり

おすすめ図書

原田マハのポスト印象派物語 / 原田 マハ

ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌ…。ポスト印象派の素晴らしい画家たちの原田マハ流紹介本。読むことと観ることの楽しみの両方を味わえる贅沢な一冊。